

こころに吹く風は … <カウンセリングルーム便り>

園庭で元気に遊ぶ子どもたちに交じって、時々「エーン、エーン」と大泣きする子どもの姿が見られます。「どうしたのかな？」とそばによって尋ねると、「ママに会いたくなかった。」とのこと。「そうかあ…ママが大好きなんだね。」と返すと泣くのをやめてくれます。続けて、「だから、ママに会いたくなかったんだね。」と言うと、たいていの子どもたちは泣き止んだり、にっこりとほほ笑んで頷いてくれたりします。

大好きなママやパパとちょっと離れての冒険の旅が始まりました。

お友達と一緒に、ドキドキすること、キュンキュンすること、わくわくすること、楽しいことがたくさんある幼稚園でありますように。

アドラー博士が教える

子どもの「がまんできる心」をひき出す本 より抜粋

「子どもの困った行動」をかんとんにやめさせるには？」

「ほら、またこぼした！」「またそうやって散らかすんだから！」なんて叱り続けていませんか？困った行動を減らすには、目のつけどころを変えるといいのです。

椅子をがたがた揺らしたり、遊んだものを片付けずにその辺に散らかしていたり…「何でじっとできないの！またそうやって、ホントに落ち着きがない！」「ほらまた散らかして！片付けなさいっていつも言ってるじゃないの！」つい、子どもの困った行動に注意を奪われて、そのたびに叱ってしまいがちです。

「揺らさないでね」「ソファと床の上のもの、自分の部屋に片付けてね」して欲しい事があるなら、具体的に言えばいいのです。何度も叱ることはありません。お母さんが関心を持つ行動を、子どもは無意識に繰り返します。プラスの関心を寄せてもらえばもちろん嬉しいのですが、こっちを向いてくれないよりは「ほら、また」と文句を言ってくれる方が子どもは安心なのです。なかには、お母さんにふり向いてほしくてわざと騒ぎを起こす子もいます。静かに落ち着いてほしいのなら、それが出来ていないときに関心を向けるのではなく、できた時に声をかけるのです。食卓についている間中ずっと、がたがた椅子を揺らし続ける子どもはいません。「あ、静かにできているね。」片付けなさいと何度も大声で言うよりも、片付けたところで、それをちゃんと認めてあげましょう。「片付けられたね。これだと気持ちがいいね。」半分しか片付けていなくても、「だいぶきれいになったね。半分片付くと、ずいぶん違うね。」こう言ってあげればいいのです。

<青春出版社 星一郎>

「子育て中の保護者の方々のためのカウンセリングはいつでもご予約できます。子育てに関するお悩みだけではなく、「なんとなく話してみたいこと」「ちょっとした日常の出来事」など、肩の力を抜いて、どうぞお気軽にお話してください。

(予約 TEL 048-774-1046) または、木曜日の朝、玄関先に立っている私に直接お声掛けください。まずは大人が一日を笑顔で過ごせるよう、一緒に考えていきましょう。